

J.S.Bach Sinfonien

バッハ シンフォニア

第7番 ホ短調 BWV793

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、インヴェンションとシンフォニアについて	3
1. バッハ「シンフォニア」第7番 e moll BWV 793 楽譜	4
2. 主題と対旋律と装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「シンフォニア」第7番 e moll BWV 793 第I展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「シンフォニア」第7番 e moll BWV 793 第II展開部の楽曲分析と演奏法について	10
5. バッハ「シンフォニア」第7番 e moll BWV 793 第III展開部の楽曲分析と演奏法について	12
6. バッハ「シンフォニア」第7番 e moll BWV 793 コーダの楽曲分析と演奏法について	15
7. 楽譜にアナリゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	16

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いであります。

2019 年 3 月 ～ 2020 年 5 月、バッハ インヴェンション全 15 曲の全面作り直しを致しましたが、シンフォニアも同様に全面作り直しをする事と致しました。作る度に新たな発見などあり、このように音楽に向き合っている今に感謝しております。(2020 年 6 月)

■インヴェンションとシンフォニアについて

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) のクラヴィーア曲は、その大部分がケーテンの宮廷楽長時代 (1717~1723) に書かれました。インヴェンションとシンフォニア BWV 772-801 (*Inventionen und Sinfonien* BWV 772-801) も、「フランス組曲」「イギリス組曲」「平均律クラヴィーア曲集第 1 巻」などと共にケーテン時代に書かれた作品の一つとなります。クラヴィーア曲の多くは、教育目的として書かれました。バッハには、自身が「いずれも生まれながらの音楽家」と誇らしく語る息子たちがおり、とりわけ豊かな才能に恵まれていた長男ヴィルヘルム・フリーデマンの教材として「ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集 (*Klavierbüchlein für Wilhelm Friedemann Bach*)」(1720 年頃) が編まれました。この曲集の中に「インヴェンション」の最初の形が見出される事となります。そこでは、2 声の曲が「プレアンブルム」(*Praeambulum*)、3 声の曲が「ファンタジア」(*Fantasia*) と題されていました。その後、バッハはさらに改訂し、1723 年に配列も変え、題名も 2 声曲を「インヴェンツィオ」、3 声曲を「シンフォニーア」と改めました。

自筆浄書譜には次のような表題があります。

「クラヴィーアの愛好家、とりわけ学習希望者が、まず 2 声部をきれいに弾き分けるだけでなく、さらに上達したならば、オブリガートの 3 声部を正しくそして上手に処理し、それと同時に、すぐれた楽想を得るだけでなく、それらを巧みに展開すること。そしてとりわけ、カンタービレの奏法を身につけ、それとともに作曲の予備知識を得るための、はっきりした方法を示す正しい手引き。」

シンフォニアもインヴェンション同様に、曲集に採用されています 15 調は、ハ長調 - ハ短調 - ニ長調 - ニ短調 - 変ホ長調 - ホ長調 - ホ短調 - ヘ長調 - ヘ短調 - ト長調 - ト短調 - イ長調 - イ短調 - 変ロ長調 - ロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。)

Sinfonia 7

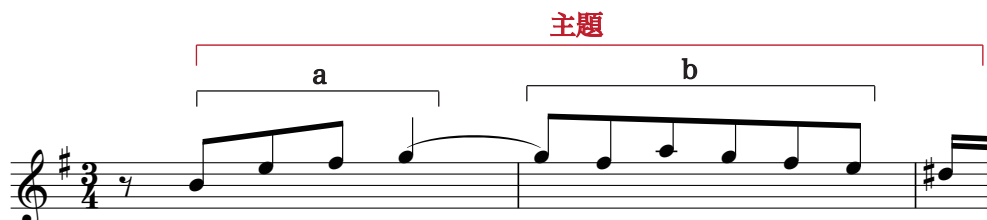
Johann Sebastian Bach
BWV 793

The musical score for Sinfonia 7, BWV 793 by Johann Sebastian Bach, is presented in six systems. Each system consists of a treble and bass staff joined by a brace. The key signature is one sharp (F#), and the time signature is 3/4. The score is heavily annotated with fingerings (numbers 1-5) and articulations (accents, slurs, and breath marks). The first system begins with a treble staff entry on the first beat, followed by a bass staff entry on the second beat. The second system continues the melodic development in the treble, with the bass providing harmonic support. The third system shows a more active bass line. The fourth system features a complex treble melody with many slurs and fingerings. The fifth system has a more rhythmic bass line. The sixth system concludes the piece with a final cadence in the treble and a sustained bass line.

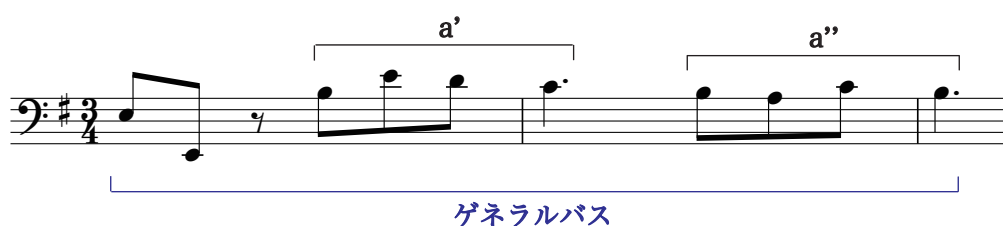
2. 主題と対旋律と装飾記号の演奏について

悲しげな表情の主題に基づくフーガです。主題の二重化や自由な転調など豊富な技法により構成され、幅広い表現はシンフォニア全 15 曲の中で第 13 番と並んで屈指の作品と言えます。

主題です。

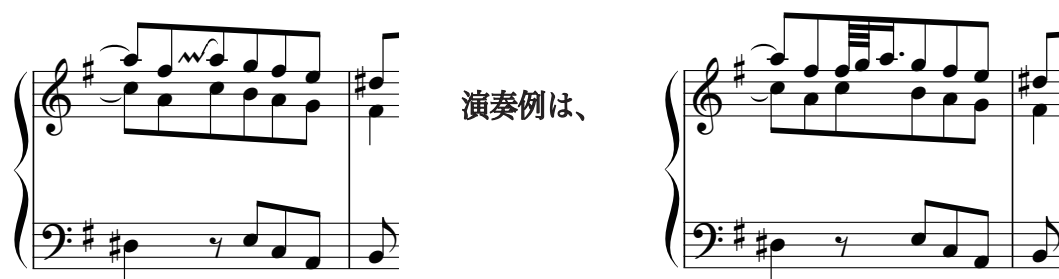


動機 a と動機 b により形成されています 2 小節の主題です。この主題に対し、動機 a' と動機 a'' により形成されていますゲネラルバスが置かれています。



曲の冒頭のゲネラルバスは、第 II 展開部冒頭では十六分音符による対旋律と化しています。

この曲は、装飾音は付けずに演奏して良いと思いますが、あえて付けるなら、6,8,15,17,26,38 の主題および 10,13 小節上声に $\sim$ (シュライファー) を付けても良いと思います。6 小節を例にします。



6 小節以外も同様です。